

各 位

三重県病害虫防除所長

令和7年度病害虫発生予報第1号

このことについて、下記のとおり発表します。

1. 向こう1か月の予報と対策

1) 作物

イネでは、イネミズゾウムシの発生時期は**やや早**、発生量は**少**と予想されます。

コムギでは、赤かび病の発生量は**やや多**と予想されます。複数回防除を基本とし、1回目は開花期に、2回目は1回目の7日から10日後に実施してください。

2) 果樹

カンキツでは、そうか病の発生量は**やや多**と予想されます。新葉に病斑が見られるほ場では、その後果実へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。かいよう病は**やや多**と予想されます。越冬病斑が見られるほ場では、新葉や幼果へと感染していくので初期の予防散布を徹底してください。ミカンハダニの発生量は**平年並**と予想されます。

ナシでは、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されます。発生が見られるほ場では、低密度のうちに防除してください。赤星病の発生量は**平年並**、黒星病、アブラムシ類の発生量は**やや少**と予想されます。

果樹類共通の病害虫は、果樹カメムシ類の発生量が**やや少**と予想されます。

目 次	ページ
1. 向こう1か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠	6
4. 予察項目の見方	10
5. 気象のデータ	11
6. おしらせ	13

3) 茶

チャでは、チャノキイロアザミウマの発生量は**やや多**と予想されます。新芽の伸長と共に発生量が増加するので注意してください。カンザワハダニ、クワシロカイガラムシの発生量は**やや少**と予想されます。チャノホソガ、チャノコカクモンハマキの発生量は**平年並**と予想されます。

4) 野菜

イチゴでは、ハダニ類の発生量は**やや多**と予想されます。ほ場によって発生にばらつきがあります。こまめにほ場を観察し、発生初期の防除に努めてください。

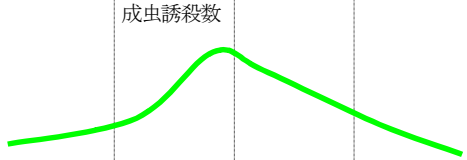
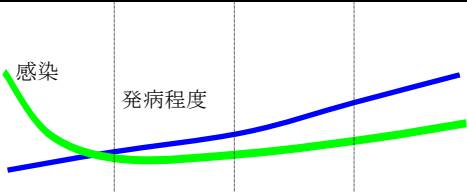
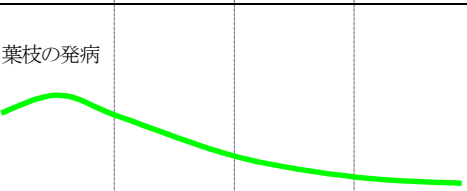
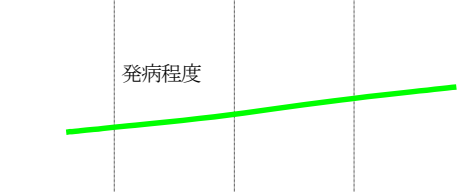
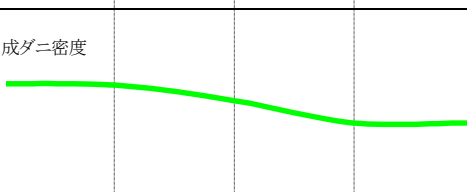
515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

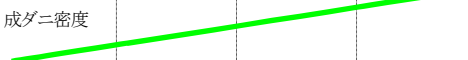
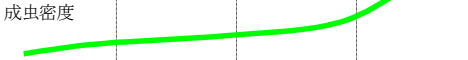
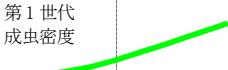
ホームページ <https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

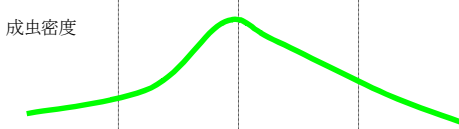
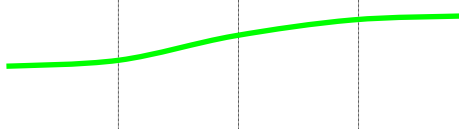
農薬はラベルの表示を確認して、正しく使用してください。

2. 作物別の状況

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除ほ場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	少	小	低	成虫誘殺数 				1) 近年、発生量が少ないので移植後、発生の状況に応じて防除してください。 2) 常発ほ場では、箱施用剤による予防を行ってください。
コムギ	赤かび病	—	やや多	大	高	感染 発病程度 				1) 病害虫防除技術情報第20号(令和7年3月24日発表)。 2) 病害虫発生予察注意報1号(令和7年4月22日発表)。 3) ほ場をよく観察して、開花始めから開花盛期に薬剤を散布してください。開花前の薬剤散布は防除効果が劣ります。 4) 複数回防除を基本とし、2回目は1回目の7日から10日後に実施してください。
カンキツ	そうか病	—	やや多	小	普通	葉枝の発病 				1) 発芽期の防除を実施することで、その後の発生を抑えることができます。 2) 新葉に病斑が見られるほ場では、その後果実へ感染しますので、幼果期の防除を計画してください。
	かいよう病	—	温州 やや多 中晩柑 やや多	温州 小 中晩柑 中	温州 普通 中晩柑 普通	発病程度 				1) 越冬病斑が見られるほ場では、新葉や幼果へと感染していくので、初期の予防散布がポイントです。 2) 越冬病斑が多いほ場では、伝染源となる発病葉及び発病枝は除去し、ほ場外で処分してください。 3) 3～4月に防除を実施していないほ場では、5月に防除を実施してください。
	ミカンハダニ	—	平年並	中	普通	成ダニ密度 				1) 冬期にマシン油乳剤を散布していないほ場では、新梢伸長期に発生が急増することがあるので注意してください。 2) 発生量はほ場によるばらつきがあるので、発生状況をよく観察してください。 3) 成虫が1葉当り0.5～1.0頭になったら防除を計画してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除 ほ場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
		平年比	平年比	程度		平年比	4 月	5 月			
							下旬	上旬	中旬		下旬
ナシ	黒星病	—	やや少	小	低	発病程度					1) 昨年の発生が多かったほ場では、天気予報の降雨の情報に注意し、防除適期を逃さないようにしてください。 2) 発病が確認されたら追加防除を行ってください。
	赤星病	—	平年並	小	普通	ビャクシン類 の冬孢子発芽					1) カイツカイブキ等の枝葉に生成された病原菌が 4 月頃の雨滴によって飛散し、ナシに感染します。 2) 例年発生するほ場や発生が確認されたほ場では早めに防除してください。
	ハダニ類	—	やや多	小	普通	成ダニ密度					1) 発生が見られるほ場では、低密度のうちに防除してください。
	アブラムシ類	—	やや少	小	低	ナシノアブラムシ密度	ナシミドリオオア ブラムシ密度	ワタアブラムシ、ユキヤナ ギアブラムシ密度			1) 初期の寄生を見つけることが重要です。 2) 寄生葉付近はアリが活発に活動していることがあるので、発見の目安になります。
果樹共通	カメムシ類	—	やや少	小	低	トラップ 誘殺数	ツヤアオカメムシ	チャバネアオカ メムシ			1) 山林に近いほ場や過去に多数飛来があったほ場では、飛来に注意してください。 2) 果樹カメムシ類は、4 月はウメ、5 月はナシ、ビワ、モモに飛来します。 3) 防除はほ場及びほ場周辺(街灯への夜間飛来など)への果樹カメムシ類の飛来を確認して行ってください。 4) 一旦飛来すると連続して飛来することが多いので、防除実施後も注意してください。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除 ほ場率	発生活消長の一例				防除の注意事項
						4 月	5 月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	小	普通					1) 一番茶摘採後は場を確認して、多発状況であれば摘採前日数に注意して防除してください。 2) 葉裏に生息していますので、葉裏に十分かかる様に薬剤を丁寧に散布してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいので、同一系統薬剤の連用は避けてください。 4) 天敵への影響が小さい薬剤を選択してください。
	チャノホソガ	—	平年並	小	普通					1) 新芽に産卵します。若齢幼虫の多発が認められたほ場では防除してください。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	小	低					1) 新芽の葉柄基部や未展開葉の内側などを吸汁加害します。 2) 新芽の伸長と共に発生量が増加します。
	クワシロカイガラムシ	—	やや少	小	普通					1) 4 月 21 日現在の有効積算温度による予測式では、孵化最盛期予測日(防除適期)は 5 月 15～18 日頃(平年並)と予想されます。なお、今後の温度変化により防除適期は変化しますので、ご注意ください。 2) 天敵保護のために、天敵への影響が小さい薬剤を選択してください。 3) 孵化時期に散水により枝幹を濡らすことで歩行型幼虫の固着を防ぐ効果があります。

作物名	病害虫名	発生時期	発生量		要防除ほ場率	発生活長の一例				防除の注意事項
						4月	5月			
		平年比	平年比	程度	平年比	下旬	上旬	中旬	下旬	
チャ	チャノコカクモンハマキ	—	平年並	小	普通					1) 幼虫は孵化数日後に葉を2～3枚綴るようになるので、葉が効きにくくなります。孵化直後の若齢幼虫を対象に防除してください。 2) 例年、越冬世代成虫の発生最盛期は5月第1半旬です。この7～15日後の幼虫孵化期(5月中旬頃)が防除適期です。
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	中	普通					1) ほ場によって発生にばらつきがあります。こまめには場を観察し、発生状況を確認してください。 2) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去し、葉裏にもかかるよう丁寧に散布してください。 3) 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統薬剤の連用は避けてください。 4) 薬剤散布の際は、収穫前日数と総使用回数を遵守するとともに、天敵やミツバチに対する影響も十分考慮して、薬剤の選択を行ってください。

3. 発生時期・発生量(平年比)の予察根拠

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イネ	イネミズゾウムシ	やや早	少	要因 1) 1か月予報(4月17日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない見込み(±) 2) 予察灯(水田・松阪市)の初飛来は4月18日(平年4月23日)(+) 3) 予察灯(水田・松阪市、昨年7月第1半旬～9月第2半旬)では、誘殺数は67頭(平年97頭)と少(－) 4) 巡回調査ほ場(昨年8月)では、発生ほ場率は2.4%(平年5.8%)と少、払い落とし虫数は0.03頭(平年0.1頭)と少(－) 考察：予察灯の調査結果から、越冬成虫の予想発生量は少と考えます。
コムギ	赤かび病	－	やや多	要因 1) 1か月予報(4月17日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない見込み(+) 2) 降雨日に開花期を迎えたほ場が認められた(+) 3) 県予察ほ場(11月12日播種・品種あやひかり・松阪市)では、出穂期は4月3日(平年4月4日)と平年並(±) 4) 一般ほ場では、出穂期は平年並の状況(±) 考察：予想発生量はやや多と考えます。
カンキツ	そうか病	－	やや多	要因 1) 1か月予報(4月17日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない見込み(+) 2) 巡回調査ほ場(4月第2週)では、旧葉発病度0.06(平年0.02)と多(+) 3) 一般ほ場での発生量は平年並(±) 考察：現状の発生量は一般ほ場の結果を重視して平年並と考えますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。
	かいよう病	－	温州 やや多 中晩柑 やや多	要因 1) 1か月予報(4月17日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない見込み(+) 2) 巡回調査ほ場(4月第2週)では、温州みかんでは旧葉発病度0(平年0.02)で平年並の傾向(±)、中晩柑類では旧葉発病度0.4(平年2.6)で少(－) 3) 一般ほ場での発生量は平年並(±) 考察：現状の発生量は平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない見込み (＋) 2) 県予察圃(御浜町、興津早生、4 月中旬)の寄生虫数／葉は無防除区 0 頭(平年 25.3 頭)と少、慣行防除区 0 頭(平年 2.0 頭)と少 (－) 3) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、寄生葉率 0.3%(平年 3.6%)と少、寄生虫数／葉は 0.003 頭(平年 0.25 頭)と少 (－) 4) 一般ほ場では、発生量は少～やや少(概してやや少) (－) 考察：現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。
ナシ	黒星病	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない見込み (＋) 2) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、発病芽率 0%(平年 0%)と平年並 (±) 3) 一般ほ場では、発生量は少 (－) 考察：現状の発生量は少と考えられ、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。
	赤星病	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない見込み (±) 2) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、発病葉率 0%(平年 0%)と平年並 (±) 3) 一般ほ場では、発生は認められない (－) 考察：予想発生量は平年並と考えます。
	ハダニ類	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない見込み (＋) 2) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、寄生葉率 3%(平年 0%)と多の傾向 (＋) 3) 一般ほ場では、発生量は平年並 (±) 考察：現状の発生量は平年並と考えられ、今後の気象条件から予想発生量はやや多と考えます。
	アブラムシ類	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない見込み (＋) 2) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、寄生枝率 0%(平年 0.09%)と少 (－) 3) 一般ほ場では、発生量は少 (－) 考察：現状の発生量は少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
果樹 共通	カメムシ類	—	やや少	要因 1) 予察灯(御浜町、4月1日～10日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ3頭(平年5.5頭)とやや少、ツヤアオカメムシ0頭(平年76.4頭)とやや少の傾向(—) 2) 予察灯(畑・松阪市、4月第1～3半旬)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ0頭(平年0.2頭)とやや少、ツヤアオカメムシ0頭(平年0.1頭)とやや少(—) 3) 昨年度の予察灯(御浜町、令和6年10月1日～11月30日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ170頭(平年384頭)とやや少、ツヤアオカメムシ1780頭(平年3112頭)とやや少(—) 4) 昨年度の予察灯(畑・松阪市、令和6年10月1日～11月30日)では、誘殺数はチャバネアオカメムシ67頭(平年158.4頭)と平年並の傾向、ツヤアオカメムシ104頭(平年284.9頭)と平年並の傾向(±)。 5) 県予察圃フェロモントラップ(御浜、4月1～10日)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は3頭(平年2.9頭)と平年並、ツヤアオカメムシ0頭(平年2.5頭)と少(—) 6) 昨年度のフェロモントラップ(令和6年10月1日～11月30日)ではチャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)112頭(平年153.8頭)と少、中間地(津市白山町二本木)34.1頭(平年46.0頭)と平年並の傾向、平坦地(松阪市嬉野川北町)30.3頭(平年22.3頭)と多(±) 7) フェロモントラップ(4月第1～2週)では、チャバネアオカメムシ誘殺数は山地(津市白山町川口)4.3頭(平年9.8頭)と少、中間地(津市白山町二本木)12.4頭(平年17.1頭)と少、平坦地(松阪市嬉野川北町)0.9頭(平年0.4頭)とやや多の傾向(—) 8) チャバネアオカメムシの越冬量は、0.60頭/地点(平年3.3頭)と少(—) 9) 巡回調査ほ場(4月第2週)では、カンキツほ場へは未飛来(—) 考察：越冬個体数はやや少と考えられ、今後の予想発生量はやや少と考えます。
チャ	カンザワハダニ	—	やや少	要因 1) 1か月予報(4月17日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想(+) 2) 県予察圃(亀山市、4月上旬から中旬)では、寄生葉率0%(平年19.7%)は少、寄生頭数0頭/葉(平年1.38頭/葉)も少(—) 3) 巡回調査ほ場(4月第2週)では、発生ほ場率22.2%(平年64.3%)と少、寄生葉率0.4%(平年9.4%)と少、寄生頭数0.006頭/葉(平年0.58頭/葉)と少(—) 4) 一般ほ場では、発生量は少(—) 考察：現状の発生量は少と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや少と考えます。

作物名	病害虫名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
チャ	チャノホソガ	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+) 2) 県予察圃(亀山市)では、フェロモントラップ(3 月第 4 半旬～4 月第 3 半旬)では誘殺数 740 頭(平年 1,340.4 頭)と平年並の傾向 (±) 3) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、巻葉数 0.0 枚/㎡(平年 0.08 枚/㎡)と少 (－) 4) 一般ほ場では、発生量は少 (－) 考察：現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件を考慮し予想発生量は平年並と考えます。
	チャノキイロアザミウマ	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+) 2) 県予察圃(亀山市、4 月第 1～3 半旬)では、黄色粘着トラップ捕殺数 116.8 頭(平年 65.5 頭)とやや多の傾向 (+) 3) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、叩き落とし虫数 2.3 頭(平年 0.08 頭)と多 (+) 考察：県予察圃及び巡回調査ほ場の発生状況から、予想発生量はやや多と考えます。
	クワシロカイガラムシ	—	やや少	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+) 2) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、雌成虫寄生株率 2.0%(平年 11.5%)と少 (－) 3) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、雄成虫寄生株率 2.2%(平年 8.8%)と少 (－) 考察：現状の発生量は少と考えられますが、今後の気象条件を考慮し予想発生量はやや少と考えます。
	チャノコカクモンハマキ	—	平年並	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+) 2) 県予察圃フェロモントラップ(亀山市、4 月第 1～3 半旬)では、誘殺数 31.7 頭(平年 387.0 頭)とやや少の傾向 (－) 3) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、ハマキムシ類巻葉数 0.3 枚/㎡(平年 1.3 枚/㎡)とやや少 (－) 4) 一般ほ場では、一部において、越冬幼虫が見られた (+) 考察：現状の発生量はやや少と考えられますが、今後の気象条件を考慮し、予想発生量は平年並と考えます。
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	要因 1) 1 か月予報(4 月 17 日発表)によると、気温は高く、降水量は平年並か少ない予想 (+) 2) 巡回調査ほ場(4 月第 2 週)では、寄生株率 0%(平年 7.8%)と少、寄生程度 0%(平年 4.3%)と少 (－) 3) 一般ほ場では、発生量はやや少～やや多(概して平年並) (±) 考察：現状の発生量は平年並と考えられますが、今後の気象条件を考慮して予想発生量はやや多と考えます。

4. 予察項目の見方

1)「作物別の状況」の見方

発生時期(平年比)： 平年の発生日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の 5 段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数	-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年発生日	1	2	3	4	5	6	
評価	早	やや早		平年並				やや遅				遅		

発生量(平年比)： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の 5 段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

平年値 ↓						
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量(程度)： 発生程度を「小、中、大、甚」の 4 段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量(平年比)」と比

べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい」「平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よりやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除は場率(平年比)： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の 3 段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半のほ場では防除暦に沿った通常の防除が必要と予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要になると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか、防除しなくても済むと予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発消長の一例： 発生予報は向こう 1 か月の予報ですが、その前後を合わせて 40 日ほどの病害虫の発消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう 1 か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2)「発生時期・発生量(平年日)の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 気象のデータ

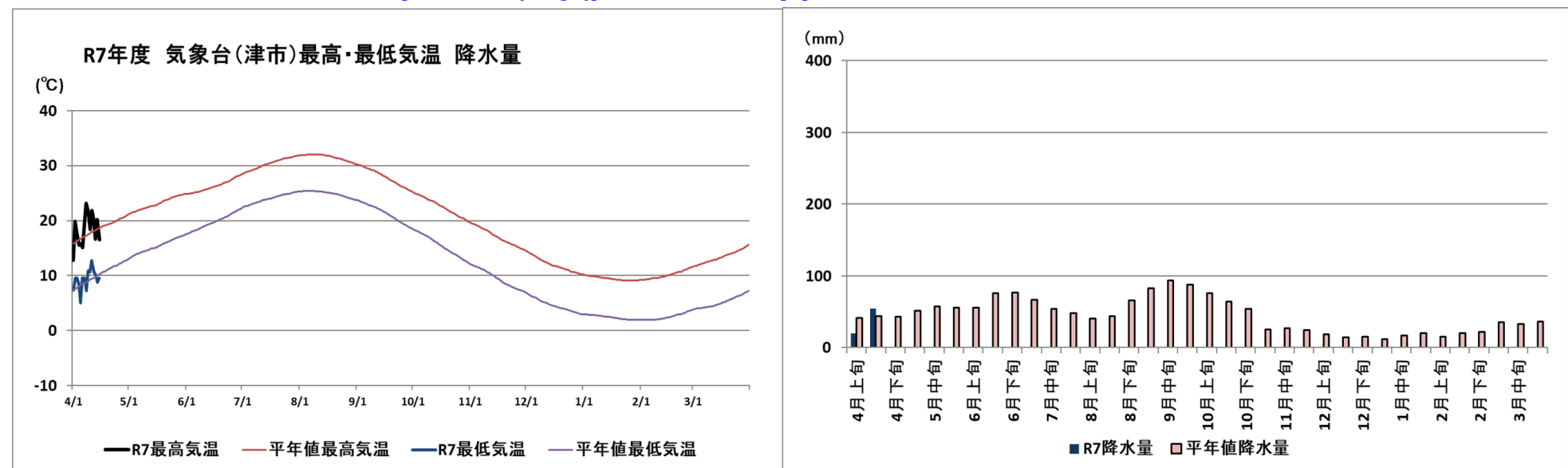
東海地方 1 か月予報（令和 7 年 4 月 17 日 名古屋地方気象台発表）

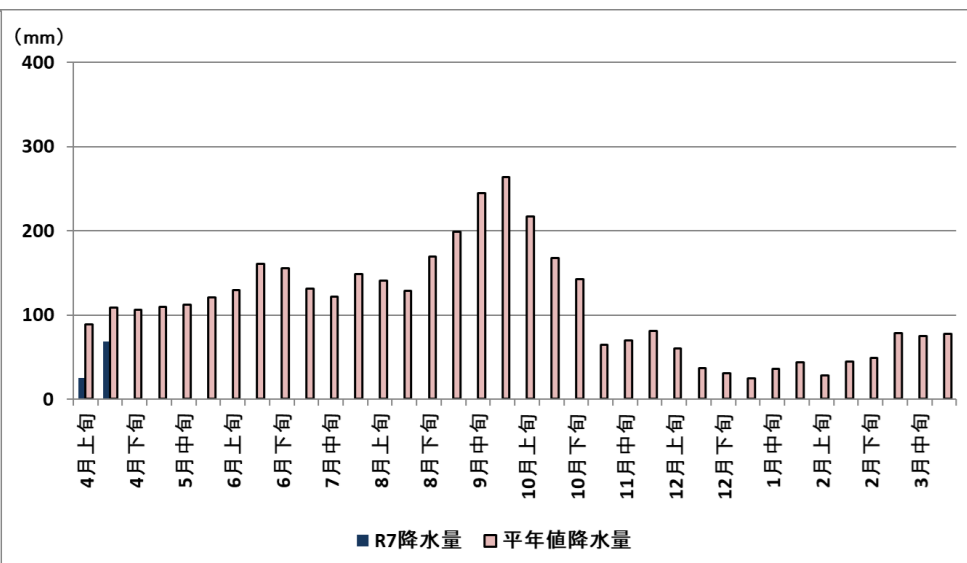
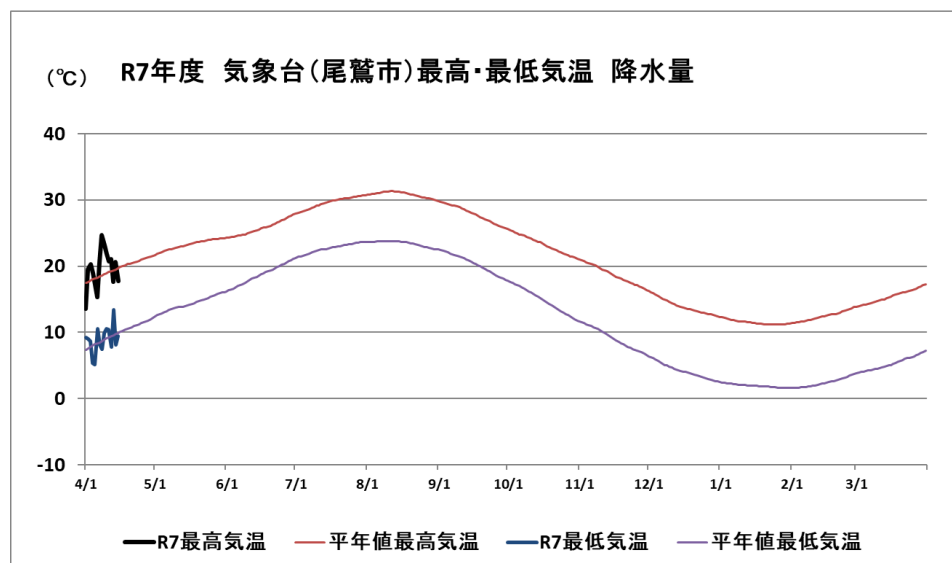
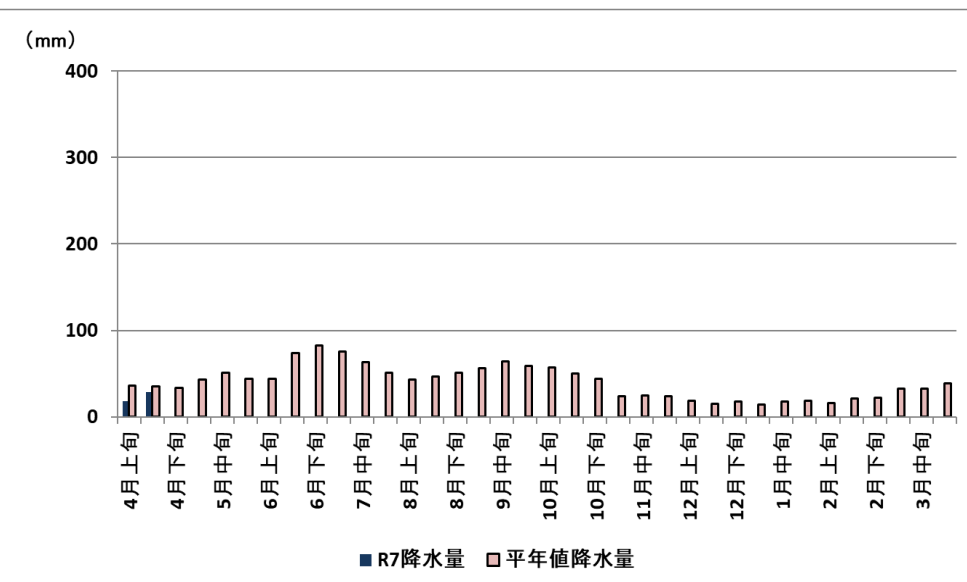
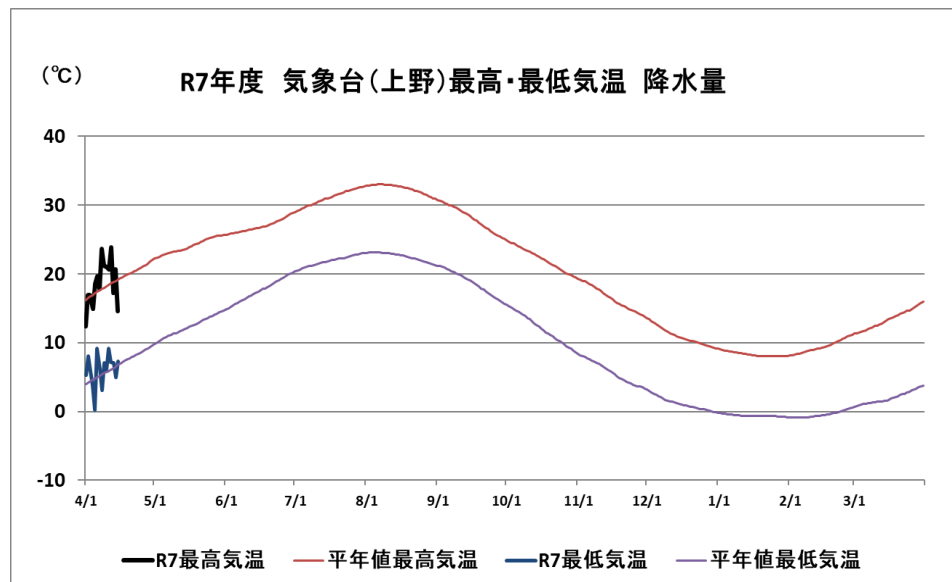
向こう1か月の気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。特に、期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

向こう1か月の降水量は、高気圧に覆われやすい時期があるため、平年並か少ないでしょう。

1 週目 4 月 19 日～25 日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
2 週目 4 月 26 日～5 月 2 日	天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
3～4 週目 5 月 3 日～16 日	天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気象の日別推移（気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成）（4 月 15 日まで）





6. おしらせ（前回と異なる項目には **NEW** の印があります）

1) 記載基準の注意点

平年ほとんど発生のないか非常に少ない病害虫については、平年並に少ない発生状態の「発生量平年比」を「平年並」、「発生量程度」を「小」と記述しています。

2) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回	4月24日(木)(今回)	第2回	5月22日(木)
第3回	6月19日(木)	第4回	7月23日(水)
第5回	8月21日(木)	第6回	10月17日(金)
第7回	3月19日(木)		

3) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/index.htm>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただけると幸いです。

4) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。

下記のアドレスからお入りください。

<https://www.pref.mie.lg.jp/common/content/001134365.pdf>

5) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたことを「掲載通知」として電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39475007379.htm>

6) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

三重県農薬情報システム

<https://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/mie>

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報提供システム」

<https://pesticide.maff.go.jp/>

7) IPM(総合的病害虫・雑草管理)実践指標について

三重県では IPM を実践する上で必要な農作業の具体的な取組内容を示した作物別の指標を公表しています。農業者の皆さんの取組について、現状把握と今後の気づきにご活用ください。病害虫防除所ホームページにリンクを設定しています。

三重県農林水産部農産物安全・流通課ホームページ内

<https://www.pref.mie.lg.jp/NOAN/HP/80301022763.htm>